

【参考】 2022年4月20日・21日実施 NIJL/EAJRS くずし字 WS

## 全文テキスト集

本データはくずし字ワークショップで利用した CBL のテキストの全文テキストデータです。講義で使用した箇所以外も総て含んでいます。急いで作成したものですから誤りのあるのはお許しください。次に示す URL から PDF など全冊ダウンロード出来ますので、それを横に置いて、くずし字の勉強に利用いただければと思います。(NIJL 山本和明)

Session 1 (CBL 所蔵資料を読む 版本1)

※ 『新板花扇廓邯鄲』 CBL J 1703.2

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_1703\\_2/1/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_1703_2/1/)

※ 『月次のあそび (十二月品さだめ)』前半 CBL J 1662

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_1662/1/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_1662/1/)

Session 2 (CBL 所蔵資料を読む 版本2)

※ 『月次のあそび (十二月品さだめ)』後半 CBL J 1662

Session 3 (CBL 所蔵資料を読む 絵巻物)

※『朝比奈物語絵巻』 CBL J 1132

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_1132/1/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_1132/1/)

Session 4 (CBL 所蔵資料を読む + α 狂歌摺物ほか)

※J\_2820 浅草庵市人・葛飾北斎狂歌摺物

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_2820/1/LOG\\_0000/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2820/1/LOG_0000/)

※J\_2028 六樹園石川雅望・岳亭八島狂歌摺物

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_2028/1/LOG\\_0000/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2028/1/LOG_0000/)

※J\_2822 北野鞠塙(百花園主人 きたのきくう)・嘉魚俳諧一枚摺

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_2822/1/LOG\\_0000/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2822/1/LOG_0000/)

※J\_2819 四方真顔・宗理(北斎)狂歌摺物

[https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J\\_2819/1/LOG\\_0000/](https://viewer.cbl.ie/viewer/image/J_2819/1/LOG_0000/)

### 【花扇廓邯鄲】

新板扇廓邯鄲 全

へ邯鄲かいやこんたんのはり枕只一睡を露情がゑい花

ろせいゑいぐわのゆめをみる

へ物知りのあめる草紙は春秋歟これはやさしき夏花ときく



【月次のあそび（十二月品さだめ）】

序

爰に江城のほとりに菱川氏の誰といひし絵師二葉じようのむかしより此道に心を寄頃日うき世絵といひしを自然と工夫しては一流の絵師となりて冬の山に花をさかせ鬼神にもおどろき頭をかたぶけさせぬ過し秋なが／＼し夜をひとりともし火のもとにて筆をとりそこはかとなく十二月のしなさだめとて書卒ぬ是迄只もおきなんと取集め一冊の小草紙となし世のなぐさみにと所々にことほりをかきくわへてをくのみ

○四つの海なみのおともなく国の土うごかず治る御代もむさし野々  
広き御めぐみありがたや君／＼たり臣／＼たり既にはやそのとしも  
あらたまり春にもなれば日本国中の御大名御ふだい 相伝さうでんの御れき  
／＼官位くわん／＼の御しやうぞくにて御登城とうじやうをなされ御礼れいあるそれよ  
りしだい／＼に先規せんきの例を以てそれ／＼に御礼そのほか貴僧きそう出家しゅつけ  
しよ社しゃの神主かみぬしねぎあま町人まち舞まひ御能役者おもひ／＼に元朝ぐわんでうよ  
り五か日のその内は上下大手に 往還わうくわんして我さきにと御礼のおさま  
る御代ぞめでたけれ

〽御当地の松の葉わけや諸国の春

○かくて御れいもおさまりぬれば御城よりもさがり給直に御家老御年寄御役頭其ほか御一門がたへの御礼ありあるひは途中にて行あひ新春の礼儀をのぶる所もありその身は家にありながらさらぬていて年玉をおくり門礼をつとむるもあり上下衣ふくをあらためぬれば過しとしの暮よりも春の霞ともろともに若／＼と見えければ扱こそ世話にも行としをけいはくげにもてなしてとしをとりてわかく成たると申ならはしけるとかや

〽年をとらばわかからふ事じや老の春

○過し年もくれはやにわたりのこゑもおとづれければかれいめでたき福太夫とくわかには五万ざいとはやすおとに老らうにやく若めをさましうしはねがひからく果わ報ほうはいのりからなどゝとしとく神をまつりほうらいをかざりとそ酒などをのむそのさけにこゝろうかれてお幼さあひはともどちはま弓あるひはおあしなどにてあなうちほうひきさま／＼のなぐさみをする女の子は手に／＼はごいたをもちて一から十までのかずをかぞへはねをつくをみてある人これによそへ

てはいかいのほつくせよとあれば

へはごの子やついてくるりとむくろうし

○きさらぎ中の五日になればしやかの御にうめつの日なりとて

らうにやくかなたこなたの寺へまいりねはんのゑを拜むまことに

死の道はほとけものがれがたし生あるものはかならず死する也われ

らごときのいやしきものもこの御ほとけのおしゑにしたがひ後世を

ねがひほとけにも成やせんありがたしとて僧俗これをおがむことに

旦那おほき寺はきんしれうらんにてねはんぞうをぬいにしてかけ

ればはんじやうしてまいり多し

へ参りおほきてらこそふつきねはんじやう

○弥生のころにもなればよし野はつせの花よりもまさりがほなるう

へのゝ花たれつぐるともなけれども今こそ花の最中なりいざ見にゆ

かんとて人々興をもよほし花のかげにまうちうとふ所もありなみ

木のかげに池をたゝゑ花のもとにはさかづきをうかべて春宵一ぱい

あたへ千金などゝたわむれける折ふしとしの比八をかさねし女らう

のとも人をつれ黒門にさしかりこれも花見にとて行けるをみて

ゝふくめんや花にしのおかたち

○三月三日は上巳のせつくとて御礼の義式柳色とてうすもへぎのしめに花色の上下にて御礼あるとりわけて女中がたの節句とて姫君には金銀をちりばめきんしれうらんにて雛をつくり十二ひとへてかざりたて御一門の中へたがひにひいなにそへてみんしんを贈るこれは御姫君がたかしゆのむすびそめの御いわるを表也よもぎのかちんもゝのさけなどをのみいはふなりもゝのはなやなぎをかみにまくなりあるおどけものゝの酒によひてくるひしをげこわらひければ  
ゝもゝは上戸よもぎのもちや下戸のつら

○卯月八日しやかによらいたんじやうとてかたはらにはいくわいして人をだませしぐわんにんぼうずすわ此時とけさころもをかりとゝのへふるあんどうのごとくなるやたいをこしらへ五色のかみにてはりまはしあさくさ人形をつきすへて是はしやかたんじやうゆいがどくそのの御すがたと町中をくわんじんしてこそまはりけるしゆつけのかたちにみをなしてかゝるほとけをあきなふ事のあはれさよ人間はうまれて死ぬならひ成にしやかは死して生れ給ふといへば

へ春ねはん夏たんじやうやおさかさま

○五月五日あやめのせつくとてちまきをまきよもぎしやうぶにての  
きばをかざるそめかたびらをちやくし礼儀をつとむ男子をてうあひ  
のあまりにかぶとをかざり家／＼のもんをつけてのぼりをたつる風  
になびきてさゝめきわたるわこくのふうぞく戦場のそなへにひとし  
ければそらをかけるつばさもおそれて羽をやすめたつ事をうしなふ  
見物のきせんわうくわんにみちてにぎわふ事たとへていわん事なし

へひぞう子にたつるのぼりやちのあまり

へうりゑしは人をはりぬきのかぶとかな

○あやめのせつくには京もいなかにもらうにやくうちまじりて河原  
おもてに出て石をつぶてとしてみんじゆぎりをする東西に立わかり  
てたがひにしやうぶをけつせんとせしがすでに両方しるしを立てつ  
ぶてをうちあふはたいろなをりてうちかつときはかいをふきたてゝ  
みかたにいさみをつくるうちたてられてはくつきやうのわかきもの  
もあるひはくがをさしてにげるも有川へとび入てながるゝもあり楽  
に石をうつ事そうまくりの矢のごとし



へ川ごしやみへせへもふちさつきあめ

○かたじけなくも日よし大ごんげんは御当家の御うち神にてましませば金銀をちりばめ宮社は天もかゞやくばかりなり殊に林鐘中の五日に御さいれいある也天下泰平御武運長久のために八百八町のうちよりあるとあらゆる風流をこしらへ一二のそなへを論じくじをとりいさみへて御城のうちより町へまで早天より終日までねり御ともをする炎氣の折なれば行水をながす事瀧の水のごとし見物の貴賤は左右にらちをゆいまはしそのうちにこぞりて見る

へ祭礼やさあらばひやせまくわうり

○七月うらぼんにもなれば方へくのぐわん人ぼうずせがきのくわんじんとてはちをつきどらを打てやたいに飯をもりかみにてはたをこしらへさして町へにてきやうをよみ袖ごひをするみな人おやにはなれ又おんあひのわかれをかなしみてほとけにきやうようのためとておわしをほどかすおのがすみ家にはたなをかざり玉まつりとしてさまへ／＼のちんぶつをととのへ二夜三日しやうりやうをちそうするらうにやくともし火をかへげぶつみやうをとなへかなしむ也ちかき比

みうしないしほとけには三とせのうち高どろうをともしければ

へたかどろうはみる人の目のうわ火かな

○すゞめ百になれどおどりわすれず七月中旬くまなき夜やつこの／＼はあよいなりふりにておどりける此おどりと申は神代のむかしはまづいせおどりにかしまおどりすみよしおどりとは是みつよりも初り今国／＼にあまねしだれもこれをおどらざらん中にそれがしはおんどりにたのまれていにしへより今までのこうたの上手といわれたりそこらでしめよまかせておけとてしやみせんつゝみにてはやしけるこそおもしろけれとりわけこの比きそおどりなどはやりければ

へきそおどりよきなりふりやしなのこま

○おりしもこよひ八月十五夜なればくふたともどちをさそふてすみだ川のほとりへ月を見になどいひてゆくに爰こそよき所なりとて柳のかげにこぞりてさゝなどのみて三五夜中新月色二千里の外古人の心といひし詩のこゝろもこん画事成べしとかしらをたゝきいひければそばなるおどけ申やう古人心はさもあらばあれそれがしはたゞ柳

のかげなるまん丸びたいをうちながめてさけのまふと云てわらひけるぞおかしわられ（けれ）

〽月千金も一升や遊五斎

○おなじく十五夜月見にとて思ひ／＼にやかたぶねをかざり上るり  
こうたまひうたひおどりなどにて品川のほとりつくだじま本庄川す  
じあさくさ川などにながれ行てつゝみたいこしやみせんふるなど  
はやしたておなをはゑ申まひよなふしやんとさせられたまらぬおも  
しろいなどとてさけのみてそろり／＼と両ごくばしのほとりにて花  
火たてる所もあり方／＼の川すじよりおもひ／＼に出るふねはいく  
千そうといふ数をしらずぞいでにける

〽空色やこよひの月もはれこそで

○十月十九日明日はゑびすかうなりとてあき人はしだしどもをかひ  
さけさかなをとゝのへていはふ日なればその分限におふじて金銀を  
ついやしうをとりをかいもとむさるによつてうら／＼嶋山のりやう  
しすなどりども大海にあみをおろして今この時とうをとりをばい／  
＼するみなとにこぞりて市をたてて売るといやのながし帳面にう

つし口銭の利得をみる事その日にあたりておびたゞし魚とりたいたさ  
んにあきなふをみて

へかりうどやかせぎにおいつくびんぼなし

○すでに十月廿日ゑびすかうになればおよそ日本国中うら／＼里／  
＼にはゑびすにくどそなへて一日一夜あきないの利徳をねがふいわ  
んや御当地は諸国のあき人のよりあひし御城下なればしよこんりや  
うりにちんぶつをとゝのへてしたしきともをちそうするなりすでに  
さかもりになればたがひにみだれあひてさいつさゝれつのみあふと  
いへどもたべよひて一かいきやうのあまりにたちさはぐていもみぐ  
るしけれどもしかながらげこのもちによいたるよりはよしといふ

へむかい酒やかみぢ色づくかへりばな

○こゝにふきや町さかい町とて上るりせつきやうしまばらとて軒を  
ならべて見物おほし十一月朔日にやくしやつとめをきわめてつらみ  
せとてしばるはじめる太夫子共のかたへちみんよりさま／＼のちん  
ぶつをとゝのへおくりてぶたいにかざるむかしは中村かん三良しば  
ゐのみありてほかにかぶきの芝るもなかりしがよにはやるをもつて

新しばるをくわだてたがひにあらそひおのがしよさをみがくらうに  
やくのきせん木戸口にはいくわいするにおわしをもつてふだをかふ  
て見物す

へ神楽ぶるふくきやうげんやひよひより

▲霜月十五日になれかなたこなたの御やしきにはわかとの御ひめが  
たのかみおきはかまぎおびときとて御いわあるかゝるところに方  
くにかぐみいるもうもく共は是を聞日ごろまちもうけたる事なれ  
ば月行持よりふれながしいわのありし御やしきのもんぐわいさし  
ていそぎけるが言葉にはなをさかせつゝ祝儀のしなを口く／＼にのべ  
て袖ごひする民百姓もおのが心く／＼にこれをいはふ日本にてもむか  
しは大もんのしやうぞくときたりしが袖をとりすそを切てかたぎぬ  
となづけてきる今の上下の事也

へうれしきやみにあまりぬる長ばかま

▲としもほどなくくればはや十二月下旬になれば上下としとり子を  
ひとて心のいそがはしき事やむ事なしまづすゝをはきて一とせのほ  
こりをそうじするふる札をばやしろへおさめてそれよりもちをつく

いもちつきもついでいはふやきねのとし

それよりしてかざり竹かざり松をうるものもありゆみやまをうれ  
ば子どもよろこびつきしたふてあゆむ知行取は物なりを納金持は金  
銀をおさむそれ／＼にしてとしをとく

いかし金や利もつのおわりとしのくれ

元禄四年未五月吉日

日本絵師 菱河吉兵衛師宣

大伝馬町三町目 鱗形屋開板

【朝比奈物語絵巻】 CBLJ1132

朝日奈物かたり

少年の春をのみたのみてなにはのよしあしをもわきまへしらず蝸牛の角の上になにごとをかあらそはむや爰に朝比奈といひし武骨にやいと力つよきをのこなりけりひとひある十字堂に詣て祈り申やう我日の本はさら也唐天竺にもわれにまさらむ力あるものなでうあらん地獄の鬼どもこそなをいさゝか心にくけれいかにもしてかのわたりにつかはしてたべわが力の程こゝみてむとひたすらにふしをがみて

【絵】

さて帰るとて酒うる家にいりきてもたい尊(樽)などにふさにたゝへける酒をたゞのみにのみけりあるじの女もそのさまの例ならぬにおぢていふにまかせてのませつればよゝとのみつくしてそのむなしきたるをさながらまくらとして臥ともなき傍にがや／＼と人のけはひすればきと見るに白き赤きくろき青き色々なる鬼の子どもの此えひしれふしぬるをわらふなりけり

【絵】

しやにくき小鬼ばらのしりうごとするぞと太刀とりておどり出れば

みな木の葉のとぶやうにいちあしを出してにぐやをれにぐともが  
しなむや遁わざかしこき鬼どもよやよ／＼と追行ほど山をこえ野を  
過河をわたり五六十里斗もきたらむと思ふ程にふとみうしなひさて  
は小鬼ばらの足に追つきえぬことのあらぬにとはら立てみまはせば  
大なる川流れてそなたなる山際の松陰に在つる小鬼どもはいで来  
つゝ手などうちならしえみまげてこゝまでこよやむまき酒のませむ  
とうちかへし／＼はやせばやをれ朝比奈ほどのものをかくまであざ  
むくかにくきわざかないで一うちに撃ころさうずと川をおよぎ超て  
大手をうちふり／＼はしり行てみるに松の風河音に聞あひ聞もなれ  
ぬ鳥のこゑかすかなるのみにしてつや／＼ものなし

【絵】

さま／＼にはかられぬるこそやすからねばをのれ／＼といひつゝ足  
のむかひたる方にはしり行巖碌々たる所にくろがねの城門雲を凌た  
りやりなぎなた矛盾などあるとある兵具どもらしう惣に立なみて数  
多の鬼どもをごそかにさしかためたりしやおこの鬼らがふるまひ也  
か斗の門一を頼て朝比奈に立むかはむとするさてこそ心にくかりし  
鬼どものたのみなさもしられたれいでおし倒してんと門の扉にさう  
の手をおしあててひし／＼とおす中にはすは破らるなふせげと聞



王の下知あるにむねとの鬼どもやう衛を出してさしかためけれどあ  
さひなはひごろだにあるを小鬼どもに嘲笑せられてはら立まゝに力  
は剣の山をも抜つべうなりぬればたゝひた／＼とおしたふす峨々た  
る巖碎落れば庄にうたれ 榎木 むなぎにしかれてたま／＼いかめしくほ  
こ刃をとりて立むかふも朝比奈がゝひふる(搔振)太刀風にみなにげ  
ちれば閻王冥官いかにせむ／＼と手まどひしをして空をのみ仰つゝ  
なも極楽の聖衆たちいかにもして此くるしみたすけ給へとなくにさ  
すがに哀とや思ひけん

【絵】

よし／＼とともかくてもわが手にいたるまじければ今はゆるさうづ  
されどかくてのみはあらじいかにも此地獄にありとある山海の珍物  
にてもてなせさらば前の小鬼らがよき酒のまそといひしにかなへば  
よそものどもが衆たすけてむといふに今ぞ鬼どもはいき出る心ちし  
て閻王も冥官もとり／＼朝日奈が前に跪てをのれらがをもきつみゆ  
り給はることのかしこさよげに真無間を出て生浄土の飲びをうるは  
などで饗をまうけざらんやさはとく／＼といふほどやがて閻王の宮  
のうちに酒さかなふさにしてきやうすその酒は地の池といへる名に  
おふさけ三途瀬川の鍾の鈴なべであるとあるかぎりを尽してそこら

せはしと供へたるに朝比奈はわかき鬼どもにみあしまいらせなどし  
つゝ栄耀のかぎりをきはめ酒よゝとくむめり閻王を始としていかり  
にふれざらんことをみなさま／＼に心つかひしたればたのしさ物  
にゝずやう／＼酒闌なるに鬼どもおもしろくさうしうちあけて舞出  
たり

【絵】

そのまひのことばにまれ人は花のさかりとみゆるぞやとうたひけれ  
ば風だにふかば我ものにせんと座中一どにはやしたりこれはあさい  
なをのろふていへりいまこそちからつよくさかなりともまことに  
ししてきたらば我らがゑじきにせうものをといふこゝろなるべしあ  
さいなこのよしきゝとがめてにくいごくそつめらが申やうかなさら  
ばわれもまはんとてあふぎおつとりたちけるがあまりにふかくのみ  
ゑひて天地もひらめきくるめけばあしもとたよ／＼としておぼえず  
ふしまろぶとおもふたればあるじの女のきたりてをしうごかしおど  
ろかすにぞ目をさましけるさてもたゞいまのありさまはゆめにてや  
ありつらんまたうつゝにてやありぬらんげにもごくそつどもが申せ  
しごとくにぢごくにおちなばわれいかにたけくおもふ共かれらがゑ  
じきとならん事一ぢやうなりと思ひて

そのとちひたすら善をじゆしぼだひのつとめをもつばらとせし  
かばつゐにぶつくはをえたりけりあくにつよければ善にもつよ  
しとはかやうの人をぞ申ける

【一枚刷】

《J\_2028 六樹園石川雅望・岳亭八島狂歌摺物》

下毛板荷 蘭亭正住

ゝのしもちのみゝにきけよと鶯もはるはふる巢をたちそめにけり

鷹羽風

ゝ春雨はあまた雫をたらちねのゑみやなづる青柳の髪

南山師阿房

ゝさほ姫の入内あそばす元日にはゝきもとらぬとものみやつこ

六樹園

ゝ東坡巾みじかいまゝにやぶれけりうばがあだ名の春の夜の夢

《J\_2822 北野鞠塙(百花園主人 きたのきくう)・嘉魚俳諧一枚摺》

ゝ兒見せや湯気たつ河の朝ぼらけ 松江

ゝ一めに暁白しはしの霜 よしを

ゝ雁鴨も来よ加茂川のみづの味 坂東 岩子

ゝ笛吹て兒に霜敷夜ふねかな 市紅

へかたよらぬ姿もやさし水仙花 来芝

へ手打連顔はさきよや雪見月 中山 喜楽

年々歳々花やか相似たり歳々年々狂言同じからず

へ兒見せや年がよるとはおもわれず 六十六翁 榮太良

顔見せの登りを思ふ

へ舟の灯のしらけて少し冬の雨 伊賀 猿来

へはや／＼と白粉たつや水仙花 信楽 芙九

小雪をさそふ朝風も暖くおもふ兒見せの太鼓のひゞきも嵐につ

どひてほのめきわたる暁の鐘は上野か浅草歟と頻にことになん

へ雪見する人は年よれ冬のうめ 春坡

へ名を聞も嬉しき花のふゆ牡丹 芹水

あらいさましの兒見せのけしきやな

へ世の中のふりや千どりも朝きけむ ひの しめい

へ寒ひとは鷗もしらじ今朝の雪 々 まさを

舞台の花やかなるはむかしも今も智らざりけり

へおとらじと咲揃ひけり室のうめ 杜蓼

へ時ならぬ花のさかりや大舞台 江戸 栄三

へ雪の夜やしぐるゝ癖を耳にまで 大坂 愚珊

折から聞へたる二景坂本にて

水鳥にむしろ分ふぞくさまくら 大坂堂島 米彦

花売も出るや小春のくらま口 江戸角田川 鞠塙

《J\_2819 四方真顔・宗理（北斎）狂歌摺物》

杜鵑凡鳴皆北向ときけばまづ此里をこそ尋ぬべかりけり

樂山亭嵐長

ほどとぎす今宵ぞ耳にみつ蒲団しきりに雲の近くおぼへて

栄花英

振仰ぐ暁傘の雫ほど耳に入れたる初ほととぎす

軒梅葉

よつ手駕それかとはかり不如帰がなくこゑのよしやよし原

文楼 ひともと

ほととぎす待し夕辺はかひなくてあしだの原に名告るひと声  
もとつえ

郭公門たがへせぬめじるしに卯の花垣をゆふ闇の空

謡袖

へ恋すてふうき名やよそにたゝみ算おきあかしつゝまつ杜鵑

○ 九曜星丸

へ夜は猶ことにきこゆれほとゝぎす恋夫れんしの窓のひと声

鱸鱗成

へ月くらき宵にちらりと忍び音はさむやあたりやゆくほとゝぎす

琴興舎角道

へ籬からひと声かけてほとゝぎす空のいづこのつきあひにゆく

一声亭群鳥

へ格子からのぞけばみゝにつくばねの山ほとゝぎすむかふのひと声

○ 司馬菴光交

へほとゝぎすはつ音しのぶのうらや算待にこぬのは道なしかそも

京伝写

錢屋金埒

へ子規きゝあかしたる朝酒はうの花汁にしく物ぞなき

先大屋裏住

へけいせいの手くだの山のほとゝぎすかけたかときく文の高どの  
人々とおなじ心を

四方歌垣真顔

へ梯のかぼちやがもとにほととぎすその名をなのれ音はひくとも  
また

へむら雨のふりの宿へはほととぎす心待とて出ぬ宵の月

《12820 浅草庵市人・葛飾北斎狂歌摺物》

へ我心なぐさめにけり世の中のうきをばすての山の月影 浅茅菴守  
舎

へ山の端を出る時分はくれ六つのはなやかにちる月影の雪 浅花菴  
皮人

へ今宵とる糸爪（へちま）の垣に月の水ともに徳利の口へさしこむ  
浅波菴河鳥

へさやけさは蟻の穴まで見ゆる也雲のつゝみのきれ出る月 浅枝菴  
連人

へつら杖をつく／＼見れば月の影八つの頃のかたむきもせず 浅倉  
菴三笑

へ柴の戸は長閑にすみて何ひとつくらうも見へぬ秋の夜の月 浅葉  
菴音芳



へ一牧（枚）は残す障子に月影のすみ絵にうつす庭のなよ竹 浅子亭

市成

へつくま野や照月影に賤の男も門に夜なべをかづき出したり 浅緑

菴春告

へ友のなき山家にすめば月にめをはなしもせずにあかす秋の夜 浅

呂菴牧広

へ賤の女が盥に漬しせんたくにかげあらはれてすみ登る月 浅流菴

清志

へこの月に浦山しとはいひそめん須磨さらしなを思ひつゝけて 浅

月堂春人

へてぜまなる野守がもとに宿かりて見ぐるしからぬ月に遊ばん 浅

律菴永世

へ月をめでゝ心は若くなりひらの謡に立て舞ふや老ひと 浅瀬菴永

喜

へもる月に袖はぬらさでさき比の嵐もほめる宿ぞたのしき 浅草菴

市人

へ花のとき枕にしたる樽ざけでいく野ゝ月に酔と寝られぬ